

テーマ：2016年10-12月期GDP（2次速報値）の予測
 ～前期比年率+1.7%と、1次速報から上方修正を予想～

発表日：2017年3月1日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 新家 義貴
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

3月8日に内閣府から公表される2016年10-12月期実質GDP（2次速報）を前期比年率+1.7%（前期比+0.4%）と、1次速報段階の前期比年率+1.0%から上方修正されると予想する。4四半期連続で潜在成長率をはっきり上回る成長が実現するとみられ、景気回復傾向が明確化していることが示されるだろう。内訳では、公共投資が下方修正されるものの、設備投資と在庫投資が上方修正されることで、1次速報の数字を上回る見込みだ。

1次速報の段階で既に景気が回復基調にあることは確認されていたが、2次速報ではそうした動きがより明確化する形になる。16年10-12月期の鉱工業生産が加速していたことなどを考えると、こちらの方がイメージには合う。

2016年10-12月期GDP2次速報予測

1次速報実績

	(%)	(%)
実質GDP	0.4	0.2
(前期比年率)	1.7	1.0
内需寄与度	0.2	0.0
外需寄与度	0.2	0.2
民間最終消費支出	0.0	0.0
民間住宅	0.2	0.2
民間企業設備	1.5	0.9
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.0	▲ 0.1
政府最終消費支出	0.4	0.4
公的固定資本形成	▲ 2.4	▲ 1.8
財貨・サービスの輸出	2.6	2.6
財貨・サービスの輸入	1.3	1.3

※断りの無い場合、前期比(%)
 (出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は前期比+1.5%と、1次速報段階の前期比+0.9%から上方修正されると予想する。本日公表された16年10-12月期の法人企業統計では、名目設備投資（ソフトウェア除く）が前年比+3.3%と増加した。季節調整済み前期比でも+3.5%の高い伸びである。QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整や金融機関の設備投資の反映などを行えば、法季公表値より弱くはなるが、それでもGDP1次速報の値は上回る。結果として、GDPの設備投資は1次速報から上方修正となるだろう。

在庫投資は前期比寄与度▲0.0%Ptと、1次速報の▲0.1%Ptから上方修正を予想する。法人企業統計の結果が反映して原材料在庫の上方修正が見込まれるほか、流通在庫も上方修正されると思われる。在庫投資の上方修正は喜べる話ではなく、この点は多少割り引いて考えるべきと思われるが、上方修正後も特に在庫が積みあがっている状況ではない。在庫調整がほぼ終了したとの判断は変える必要はないだろう。

公共投資は前期比▲2.4%を予想する。1次速報段階で未公表だった16年12月分の建設総合統計の結果が弱かったことで、1次速報の前期比▲1.8%から下方修正されると予想する。15年度の補正予算や16年度当初予算の前倒し執行の効果が剥落していることを背景に、公共投資は2四半期連続で減少するだろう。